


目次



1. 会社概要
2. 2004年5月期決算概要
3. 2005年5月期見通し
4. 今後の方向性
5. 中期の業績目標
6. 業績推移(実績・計画)

1. この決算説明資料の金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. この決算説明資料は、現時点で入手された情報に基づき当社が判断した予想を記載しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは大きく異なることがあります。



1. 会社概要

3




会社概要



- 本社 : 愛知県名古屋市
- 創業 : 1972年9月
(1976年7月、株式会社に改組)
- 資本金 : 5億2160万円 (04年5月期)
- 代表者 : 代表取締役社長 橘 至朗
- 従業員数 : 116人 (04年5月末、単体)
- 事業内容 : 半導体、電子部品、電子機器などの販売、製造
- 売上高 : 215億円 (04年5月末、連結)
- 経常利益 : 8.2億円 (04年5月末、連結)
- 当期純利益: 4.8億円 (04年5月末、連結)

4

創業の精神が当社のDNA



創業当時の名刺

御社又は貴殿はいま何か欠品その他でお困りでは御座居ませんか?
電子部品以外でもご用命ください。

m

御社又は貴殿はいま何か欠品その他でお困り
 用命下さい。お役に立ちたいと思っております。
 住所 電話 郵便番号

橋 至 朗

三三三産業株式会社

お客様と仕入先を繋ぐ橋(三位一体)


産業であるから、当社は電子部品、半導体にとられない事業展開ができる

お客様の問題解決

5

創造的革新

絶え間ない変革を遂げていく



創業以来、一貫して、成長トレンドを維持
 過去5年間の単体売上高平均成長率15%

海外子会社による半導体生産(後工程)の開始

自動車の電子化

カーナビ(カーIT化)、ハイブリッド化へ

複写機、事務機の電子化

パチンコ台の電子化、液晶の搭載

電卓、トランシーバー

創業10周年
 本社ビル竣工 信用拡大

海外進出

6



南仏 ガールの水道橋

- 顧客第一主義
- 人間尊重
- 一流へのチャレンジ
- 創造的革新
- 企業の社会的貢献

7

2. 2004年5月期(第28期) 決算概要

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 通期実績(連結・単体) | 5. 主要顧客別売上高(連結) |
| 2. 部門別売上高(連結) | 6. 仕入実績(連結) |
| 3. 商品別売上高(連結) | 7. 損益計算書(連結) |
| 4. 業種別売上高(連結) | 8. 損益計算書(単体) |

8



第28期決算

1. 通期実績(連結・単体)



単位: 百万円

連 結	2003年5月期		2004年5月期			
	金額	前期比	金額	前期比	直近予想	直近予想比
売上高	23,824	+31.9%	21,513	- 9.7%	21,702	- 0.9%
売上総利益	2,196	+19.3%	2,384	+ 8.6%	-	-
営業利益	828	+22.2%	860	+ 3.8%	-	-
経常利益	883	+14.7%	826	- 6.5%	801	+ 3.2%
当期純利益	437	+ 8.6%	489	+12.0%	447	+ 9.6%

単 体	2003年5月期		2004年5月期	
	金額	前期比	金額	前期比
売上高	23,445	+31.9%	20,890	-10.9%
売上総利益	2,089	+18.4%	2,211	+ 5.9%
営業利益	785	+19.3%	789	+ 0.5%
経常利益	897	+19.3%	834	- 7.1%
当期純利益	453	+16.5%	466	+ 2.8%

9



第28期決算

1. 通期実績(連結)



売上高 : • 自動車向けビジネス、オプトデバイス生産は好調
 • アミューズメント向けビジネスは、風営法施行規則等の改正による得意先生産減少などにより、液晶を中心に減少

売上総利益 : 仕入価格の引き下げ、適正利益率の確保に努めたことにより
 売上総利益率は大きく改善

営業利益 : 人件費など販管費が増加

経常利益 : 為替差損および上場関連費用が発生

当期純利益 : 株式上場による株主構成の変化により、2004年5月期より留保
 金課税が不適用

10



第28期決算 2. 部門別売上高(連結)



単位:百万円

商品	期	2003年5月期		2004年5月期	
		売上高	前期比	売上高	前期比
デバイス部門		18,949	+32.6%	15,376	-18.9%
ソリューション部門		1,209	+64.5%	1,258	+ 4.1%
海外部門		2,981	+36.8%	4,129	+38.5%
その他		684	-19.8%	748	+ 9.4%
合 計		23,824	+31.9%	21,513	- 9.7%

デバイス部門

- ・自動車向けが好調に推移
- ・アミューズメント向け液晶は、風営法施行規則等の改正による得意先生産減少、液晶の再利用などにより減少

ソリューション部門 工作機器向け、自動車向けEMSは好調を維持

海外部門

- ・ M.A.Technologyのオプトデバイス生産が大きく伸びる
- ・ 新たに美達奇(香港)を連結

その他部門

電子部品実装ラインの設備投資が回復

11



第28期決算 3. 商品別売上高(連結)



単位:百万円

商品	期	2003年5月期		2004年5月期	
		売上高	前期比	売上高	前期比
半導体		7,178	+24.4%	7,800	+ 8.7%
液晶		7,460	+50.2%	4,305	-42.3%
電子部品		2,874	+24.1%	3,202	+11.4%
ユニット・アセンブリ		4,855	+46.6%	4,681	- 3.6%
その他		1,455	-13.9%	1,524	+ 4.7%
合 計		23,824	+31.9%	21,513	- 9.7%

半導体 自動車向けが好調を維持

液 晶 アミューズメント向けが大幅減少、カーナビ向けは好調を維持

電子部品 自動車向けが好調を維持

ユニット・ . M.A.Technologyのオプトデバイス生産が大きく伸びる

アセンブリ . 工作機器向け、自動車向けEMSは好調を維持

その他

- ・ ハイブリッドカー用駆動・発電モーターの量産品納入開始
- ・ 電子部品実装ラインの設備投資が回復

12



第28期決算 4. 業種別売上高(連結)



単位:百万円

	2003年5月期		2004年5月期	
	売上高	前期比	売上高	前期比
自動車関連	6,023	+46.1%	7,591	+26.0%
アミューズ関連	11,454	+32.8%	6,391	-44.2%
その他	6,345	+19.5%	7,530	+18.7%
合計	23,824	+31.9%	21,513	-9.7%

自動車

- ・ハイブリッドカー用駆動・発電モーターの量産品納入開始
- ・カーナビ向け液晶、自動車向けEMSは好調に推移
- ・半導体、電子部品は堅調に推移

アミューズメント

アミューズメント向け液晶は、風営法施行規則等の改正による得意先生産減少、液晶の再利用などにより減少

その他

- ・M.A.Technologyのオプトデバイス生産が大きく伸びる
- ・工作機械向けEMSが好調に推移

13

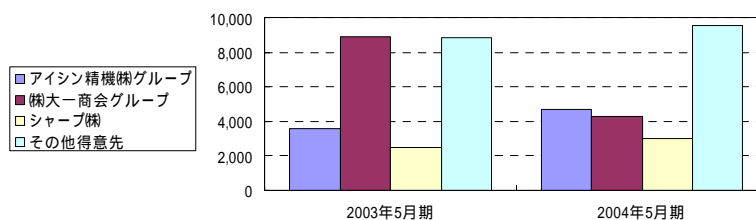


第28期決算 5. 主要顧客別売上高(連結)



単位:百万円

得意先	期	2003年5月期		2004年5月期	
		金額	割合	金額	割合
アイシン精機(株)グループ		3,600	15.1%	4,701	21.9%
(株)大一商会グループ		8,889	37.3%	4,289	19.9%
シャープ(株)		2,472	10.4%	3,009	14.0%
その他得意先		8,862	37.2%	9,512	44.2%
合計		23,824	100.0%	21,513	100.0%



14

第28期決算

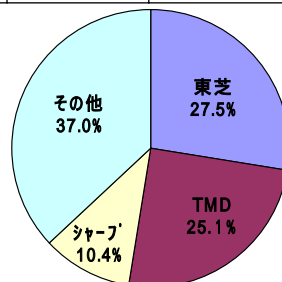
6. 仕入実績・商品別・仕入先別(連結)



単位:百万円

商品別	期	2003年5月期		2004年5月期	
		金額	前期比	金額	前期比
商品					
半導体		6,889	23.6%	6,668	-3.2%
液晶		6,493	26.9%	4,802	-26.0%
電子部品		2,407	20.1%	2,223	-7.6%
ユニット・アセンブリ		1,432	-14.4%	1,315	-8.2%
その他		2,871	105.0%	3,878	35.1%
合計		20,095	27.4%	18,889	-6.0%

仕入先別	期	2004年5月期	
		金額	構成比
仕入先			
東芝		5,199	27.5%
東芝松下ディスプレイテクノロジー(TMD)		4,740	25.1%
シャープ		1,965	10.4%
その他		6,983	37.0%



15

第28期決算

7. 損益計算書(連結)



単位:百万円

項目	期	2003年5月		2004年5月		前期比	
		金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高		23,824	100.0%	21,513	100.0%	2,311	9.7%
売上原価		21,627	90.8%	19,129	88.9%	2,499	11.6%
売上総利益		2,196	9.2%	2,384	11.1%	188	8.6%
販売費及び一般管理費		1,367	5.7%	1,523	7.1%	156	11.4%
内、人件費		862	3.6%	942	4.4%	80	9.3%
内、その他		505	2.1%	581	2.7%	75	15.0%
営業利益		828	3.5%	860	4.0%	31	3.8%
営業外収益		137	0.6%	112	0.5%	25	18.1%
内、受取利息+配当金		8	0.0%	10	0.0%	1	20.1%
営業外費用		83	0.3%	146	0.7%	63	76.9%
内、支払利息+割引料		22	0.1%	31	0.1%	8	35.8%
内、上場関連費用		-	-	37	0.2%	37	100.0%
経常利益		883	3.7%	826	3.8%	58	6.5%
特別利益		4	0.0%	13	0.1%	9	206.9%
特別損失		24	0.1%	1	0.0%	24	94.7%
税引前当期利益		863	3.6%	839	3.9%	25	2.8%
法人税住民税及び事業税		442	1.9%	345	1.6%	97	21.8%
法人税等調整額		15	0.1%	0	0.0%	15	-
少数株主利益		1	0.0%	3	0.0%	4	-
当期純利益		437	1.8%	489	2.3%	52	12.0%

16



第28期決算 8. 損益計算書(単体)



単位: 百万円

項目	2003年5月		2004年5月		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	23,445	100.0%	20,890	100.0%	2,555	10.9%
売上原価	21,356	91.1%	18,679	89.4%	2,678	12.5%
売上総利益	2,089	8.9%	2,211	10.6%	122	5.9%
販売費及び一般管理費	1,303	5.6%	1,422	6.8%	118	9.1%
内、人件費	838	3.6%	908	4.3%	70	8.4%
内、その他	465	2.0%	513	2.5%	48	10.5%
営業利益	785	3.4%	789	3.8%	3	0.5%
営業外収益	437	1.9%	504	2.4%	66	15.2%
内、受取利息+配当金	11	0.0%	12	0.1%	1	9.5%
営業外費用	325	1.4%	459	2.2%	133	41.1%
内、支払利息+割引料	20	0.1%	20	0.1%	1	0.0%
内、上場関連費用	-	-	37	0.2%	37	100.0%
経常利益	897	3.8%	834	4.0%	64	7.1%
特別利益	4	0.0%	11	0.1%	7	161.9%
特別損失	24	0.1%	42	0.2%	17	71.2%
税引前当期利益	877	3.7%	803	3.8%	74	8.4%
法人税住民税及び事業税	437	1.9%	335	1.6%	102	23.2%
法人税等調整額	13	0.1%	1	0.0%	14	-
当期純利益	453	1.9%	466	2.2%	12	2.8%

17



3. 2005年5月期(第29期)見通し

1. 業績見通し(連結)
2. 部門別売上高見通し(連結)
3. 商品別売上高見通し(連結)
4. 業種別売上高見通し(連結)

18



第29期決算

1. 業績見通し(連結)



単位:百万円

	2004年5月期	2005年5月期予想	前期比
売上高	21,513	25,413	+18.1%
売上総利益	2,384	2,634	+10.5%
売上総利益率	11.1%	10.4%	-0.7ポイント
営業利益	860	855	-0.7%
営業利益率	4.0%	3.4%	-0.6ポイント
経常利益	826	929	+12.5%
経常利益率	3.8%	3.7%	-0.1ポイント
当期純利益	489	547	+11.7%
当期純利益率	2.3%	2.2%	-0.1ポイント

売上高：自動車向けビジネスが牽引役、M.A.Technologyの工場拡張も寄与

売上総利益：高額商品の増加などプロダクトミックスの変化により売上総利益率低下

営業利益：人件費、設備償却費(システム投資など)、運送費など販管費が増加

経常利益：2004年5月期には為替差損が発生、また、上場関連費用も減少

19



第29期決算

2. 部門別売上高見通し(連結)



単位:百万円

	2004年5月期		2005年5月期予想		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前期比
デバイス部門	15,376	71.5%	17,388	68.4%	+13.1%
ソリューション部門	1,258	5.8%	1,500	5.9%	+19.2%
海外部門	4,129	19.2%	5,475	21.5%	+32.6%
その他	748	3.5%	1,050	4.1%	+40.4%
合計	21,513	100.0%	25,413	100.0%	+18.1%

デバイス部門 自動車向けが好調、ハイブリッドカー用駆動・発電モーターも本格化

ソリューション部門 工作機器向けは好調を維持し、自動車向けEMSの拡大を見込む

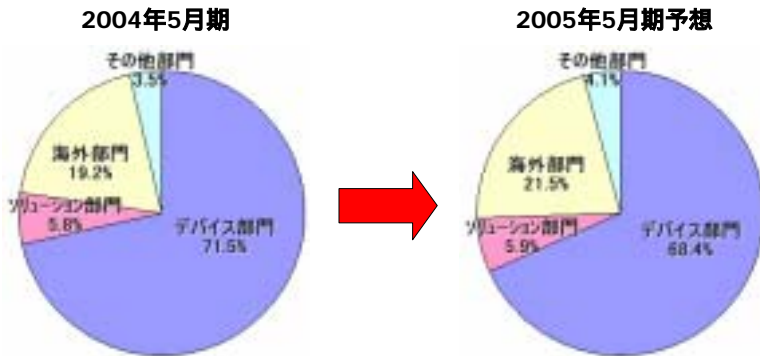
海外部門 M.A.Technologyの工場拡張が寄与
新たに台湾美連旗を連結

その他部門 自動車業界の設備投資は好調であり、さらなる増加を見込む

20



第29期決算 2. 部門別売上高見通し(連結)



21



第29期決算 3. 商品別売上高見通し(連結)



単位:百万円

	2004年5月期		2005年5月期予想		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前期比
半 導 体	7,800	36.3%	8,041	31.6%	+ 3.1%
液 晶	4,305	20.0%	4,858	19.1%	+12.8%
電 子 部 品	3,202	14.9%	3,225	12.7%	+ 0.7%
ユニット・アセンブリ	4,681	21.8%	6,411	25.2%	+37.0%
そ の 他	1,524	7.1%	2,876	11.3%	+88.7%
合 計	21,513	100.0%	25,413	100.0%	+18.1%

半導体 自動車向けが好調を維持

液晶 アミューズメントの回復、カーナビ向けは好調を維持

電子部品 自動車向けが好調を維持

ユニット・アセンブリ M.A. Technologyの工場拡張によりオプトデバイスの生産が増加
自動車向けEMSが拡大

その他 ハイブリッドカー用駆動・発電モーターの本格化

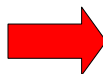
22



第29期決算 3. 商品別売上高見通し(連結)



2004年5月期



2005年5月期予想



第29期決算 4. 業種別売上高見通し(連結)



単位:百万円

	2004年5月期		2005年5月期予想		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前期比
自動車	7,591	35.3%	8,578	33.8%	+13.0%
アミューズメント	6,391	29.7%	7,640	30.1%	+19.5%
その他	7,530	35.0%	9,193	36.2%	+22.1%
合計	21,513	100.0%	25,413	100.0%	+18.1%

自動車 ハイブリッドカー用駆動・発電モーターの本格化
カーナビ向け液晶は堅調に推移
自動車向けEMSが拡大

アミューズメント 「風営法施行規則等の改正」に対応したパチンコ機による市場回復

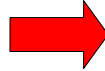
その他 M.A.Technologyの工場拡張によりオプトデバイスの生産が増加
自動車向けEMSが拡大



第29期決算 4. 業種別売上高見通し(連結)



2004年5月期



2005年5月期予想



25



4. 今後の方向性



- 1) アプリケーション別
自動車ビジネス
ソリューションビジネス
アミューズメントビジネス
- 2) 海外戦略
- 3) 効率化の追求

26



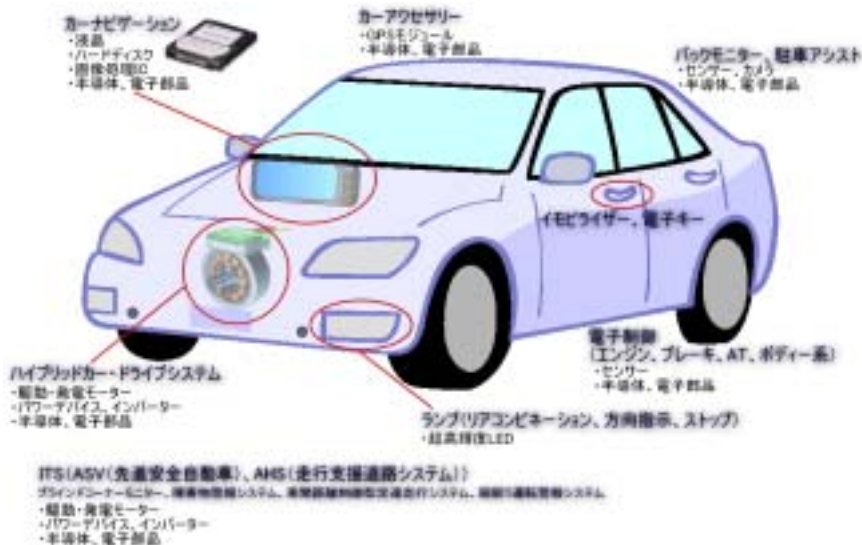
アプリケーション別



アプリケーション	今後の見通し	コメント
自動車		カーナビの発達(ITSへの対応)によるHDDの搭載率増加、ハイブリッド自動車の拡大による新たなパワーエレクトロニクス製品の搭載など、カーエレクトロニクスは大きく拡大
ソリューション		<p>オプトデバイス(海外部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル家電、携帯・通信機器など、オプトデバイス需要は拡大 M.A.Technologyの工場拡張が今期から売上寄与 <p>ボードアセンブリ(ソリューション部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> カーエレクトロニクス分野のEMS拡大 技術部門の拡充
アミューズメント		<ul style="list-style-type: none"> 風営法施行規則等の改正に対応した新台により2004年度下期から、回復を見込む 全面液晶機の発表など、台、ホール機器の電子化は拡大 アミューズメントビジネスは、ユーザーの人気に左右される懸念がある



自動車ビジネス(1) カーエレクトロニクスの進展





自動車ビジネス(2)



自動車向けビジネスの現状

得意先製品	主要販売品目	主要仕入先
カーナビゲーション	半導体、液晶、電子部品	東芝、東芝松下ディスプレイテクノロジー、ローム、村田製作所
ハイブリッドカー	駆動・発電モーター、半導体、電子部品	東芝
AT、ブレーキなどの電子制御	半導体、電子部品	東芝、ローム、村田製作所、日本電波工業
カーアクセサリ	GPS、半導体、電子部品	古野電気、東芝、ローム

自動車用半導体の世界市場

単位:百万ドル

製品分類	2004年	2007年	年平均成長率 (03~07年)
走行系	5,562	8,880	16.1%
ボディー系	5,951	7,337	7.7%
情報系	3,382	3,735	3.1%
自動車(主要3品目)計	15,366	20,915	10.6%
電子機器計	190,606	235,331	9.0%

出典: 日刊工業新聞(2004年5月20日発行)

29



自動車ビジネス(3)



重点分野

製品分野	現状	将来	エレクトロニクス
ITS分野	カーナビ (地図情報の表示)	映像、音楽、ゲームなど 様々なコンテンツへの対応 インターネットへの対応 運転支援 自動運転へ	液晶の高精細化 カメラ、センサーの搭載拡大 HDD等、記憶媒体の搭載拡大
ハイブリッド分野	プリウスが大ヒット	フォードが本年8月にSUVを発売予定 環境への消費者ニーズ、原油価格高騰による需要拡大	小信号デバイス中心からパワーエレクトロニクスへ

重点拡販製品

得意先製品	主要販売品目	主要仕入先
ITS分野	液晶ディスプレイ	カーナビゲーションに採用済、拡大を期待
	画像処理CPU	新規受注を目指す
	ハードディスク	2004年6月から納入開始、拡大を期待
ハイブリッド分野	駆動・発電モーター	2004年春から納入を開始、拡大を期待
	パワーデバイス	IGBT、電気二重層キャパシタに注力

30



ソリューションビジネス(1)



- 生産拠点M.A.Technologyの工場拡張
 - 生産スペース63%増加(2004年4月)
生産数量、生産品目の拡大を図る
 - 積極的な投資の継続 **さらなる生産規模の拡大へ**
- 技術部門の充実
 - ソリューションビジネス強化を目指し、ハード、ソフト技術者を積極的採用
半導体ビジネスでは効率化を目指しており、今後もFAE(半導体の応用技術者)の採用計画はありません
- 品質部門の充実
 - 生産拠点M.A.Technologyの品質向上を目指す
コスト、生産能力 + 品質の強化 = 競争力確保 **受注拡大**
 - 顧客の要求に、外注先とともに応えられる品質管理体制の強化

31



ソリューションビジネス(2) 生産拠点 M.A.Technology, Inc.



M.A.Technology, Inc.(フィリピン) 第2工場



工場床面積:約6,300m²

従業員:約1,000名

主要顧客

- ・シャープ(オプトデバイスと化合物半導体)
- ・エプソンフィリピン(プリンタ用部品)
- ・東海理化フィリピン(カーエレクトロニクス)

半導体組付フロントライン(クリーン度1000)



32



アミューズメントビジネス(1)



名古屋エリアでは、パチンコ台の67%を生産(2002年実績、当社推測)

2004年5月期は風営法施行規則等の改正の影響により、アミューズ向け売上高は減少
2004年度下期から、新規格台の登場による本格的な回復を見込む



- **風営法施行規則等の改正**
パチンコ台規格の整理統合 バリエーション拡大
- **液晶の大型化、高精細化**
全面液晶機の登場
- **娯楽性の追求**
LEDの多色化、高輝度化、電飾モジュール化

主要販売品目	主要サプライヤー
ディスプレイ	東芝松下ディスプレイテクノロジー 台湾AU社
LED、モジュール	東芝、ローム、光波、豊田合成など
半導体、電子部品	東芝、ローム、日本ケミコンなど

33



アミューズメントビジネス(2)



重点分野

分野	重点拡販品目	今後の展開
表示分野	液晶ディスプレイ	ディスプレイサイズの拡大 全面液晶機へ
	有機ELディスプレイ	発色および薄さで勝る有機ELディスプレイなど、次世代のディスプレイへ注力
	電飾	LED単体 LEDモジュール 電飾モジュールに注力
不正防止分野	半導体、電子部品	法規制により不正防止への取り組みが強化 新たな電子デバイスの採用が期待

今後の課題と対応

- **企画力の強化**
需給対応から企画・提案力へ、顧客ニーズは変化
- **コスト対応力**
中国、台湾などのコストパフォーマンスに優れた電子デバイスの提案、調達
(台湾美達旗、美達奇(香港)の活用、)
- **アセンブリへの対応**
M.A. Technologyの生産能力活用

34



海外戦略



- **顧客の海外進出**
アジア地区にとどまらず、積極的に対応
- **M.A.Technology(フィリピン)への投資継続**
- **海外製品ラインナップの拡充、強化**
技術サポート体制の強化(モジュール製品)

35



一人当たり営業利益 効率化の追求



- **業務改革**
 - 業務改革を推進中
業務フローの見直し、改革&改善

基幹システムの再構築(今期順次稼働予定)
 - 購買業務の一元化
購買業務の合理化
仕入価格の低減&在庫の低減を目指す
- さらなる効率化を求めて業務改革を継続します
- **ワンストップ営業**
 - 顧客の利便性の追求
 - 顧客別営業体制の維持、強化

36



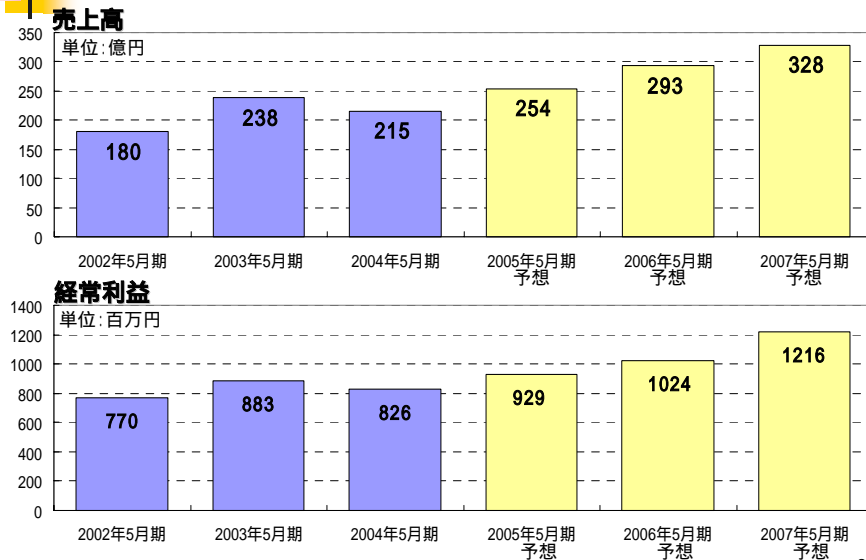
6. 業績推移(実績・計画)

1. 売上高・経常利益推移(連結) 実績 + 3期予想
2. 中期の業績目標 業種別売上高見通し(連結)
3. 【参考】 一人当たり指標

37

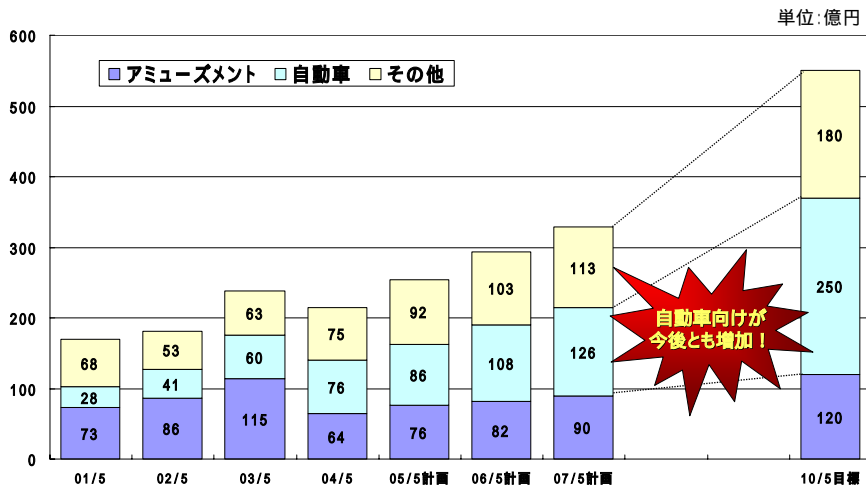


1. 売上高・経常利益推移(連結) 実績・予想



38

2. 中期の業績目標 業種別売上高の推移



2001年5月期は連結しておりませんので単体売上高で表示しております。

39

3. 【参考】 一人当たり指標



単位: 百万円

項目	2001			2002			2003			2004
	当社	34社平均	他社比較	当社	34社平均	他社比較	当社	34社平均	他社比較	当社
売上高	185.2	164.6	112.5%	209.3	185.6	112.8%	180.0	209.2	86.0%	204.2
売上総利益	18.3	16.2	113.0%	18.6	17.4	106.9%	19.0	18.8	101.1%	19.7
販売費、 一般管理費	11.5	12.7	90.6%	11.6	13.4	86.6%	12.2	14.2	85.9%	13.6
営業利益	6.8	3.5	194.3%	7.0	4.0	175.0%	6.8	4.6	147.8%	6.0
経常利益	7.8	3.8	205.3%	8.0	4.1	195.1%	7.1	4.8	147.9%	6.8
当期純利益	4.0	1.1	363.6%	4.0	1.4	285.7%	4.0	2.5	160.0%	3.6

34社平均は東洋経済新報社 会社四季報CD-ROM番号を当社にて集計いたしました。
上記は単体の各数字を単体の従業員数で除したものであります。なお、金額は10万円未満を切り捨て表示しています。

当社は同業他社主要34社平均と比較して、一人当たり

1. 売上高、利益ともに高い (2003年度一人当たり売上高を除く)
2. 販管費が低い

一人当たりの効率が高い

40